

北海道港湾空港建設協会

# 会報

平成30年1月

# 北のみなと

No.93

平成29年10月撮影「写真提供：室蘭開発建設部」



## — 目 次 —

新春のご挨拶（北海道港湾空港建設協会 会長 宮崎 英樹）…………… 1

### Report

港関係団体と当協会が北海道開発局と意見交換会を開催…………… 2

日本港湾空港建設協会連合会と当協会が北海道開発局と意見交換会を開催…………… 5

港関係団体連絡会と北海道開発局担当者が意見交換会を開催…………… 8

### 受賞

平成29年秋の叙勲受章者 伊藤組土建㈱伊藤義郎名誉会長が旭日重光章を受章…………… 9

北海道水産林務部 平成29年度 水産土木工事等優秀業者表彰…………… 10

### 各種記事

函館港若松地区クルーズ船岸壁整備事業着工式典を開催…………… 11

#### 我が社の安全衛生管理

（㈱南組 専務取締役 熊谷 真一）…………… 12

#### 工事現場紹介「釧路港西港区-14m岸壁A・C部その他上部工事」

（みらい建設工業㈱ 北海道支店 釧路作業所 所長 山田 敏久）…………… 14

#### 私の趣味「プラモデル作り」

（あおみ建設㈱ 北海道支店 高田 稔年）…………… 16

### Topics

#### イベント

「経済と暮らしを支える港づくり全国大会」の開催…………… 18

平成29年度 第2回小樽港フィールド・ラーニング開催…………… 19

釧路港西港区港見学会…………… 20

第7回苫小牧漁港区でホッキまつりが開催…………… 21

今年も盛況「小樽しゃこ祭り」が開催…………… 22

#### 大型客船等寄港

羅臼漁港ににっぽん丸寄港…………… 23

苫小牧港クルーズ客船「ばしふいっくびいなす」寄港…………… 24

### Information

事務局だより…………… 25

業界だより…………… 25

広報委員会だより…………… 25



三石漁港は、昭和8、9年に内港船入潤の築設に着手したのが発端で、その後昭和26年に第3種漁港に指定され、国の直轄事業としての整備が進められています。

平成28年までには高度な衛生管理対策としての屋根付き岸壁が完成し、これにより安全・安心で新鮮な水産物の供給を図る日高地方西部の生産拠点として、今まで以上に重要な役割を果たします。

今後も、近年増加しているイカ釣り外来船への対応など地域の拠点漁港としての利用が益々高まることから、荒天時においても安全に漁船が係留できるよう港内静穏度対策の強化に向け、防波堤の整備を進めています。

# 新春のご挨拶



## 北海道港湾空港建設協会 会長 宮崎 英樹

平成30年の年頭にあたり、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

当協会は、昭和61年4月設立以来、港湾空港建設技術を開発、向上させ、港湾空港建設業の社会的地位の向上と健全な発展を図るとともに、港湾空港整備の促進に寄与することを目的として事業を行ってきたところです。

政府は、平成30年度予算で「生産性革命」「人づくり革命」に集中投資する方針を示し、国土交通省は、基本方針として、「被災地の復旧・復興」「生産性の向上と新需要の創出による成長力の強化」「国民の安全・安心の確保」「豊かで活力のある地域づくり」の4分野の取組みを強力に推進することとしております。また、新しい日本のための優先課題推進枠として、「訪日クルーズ500万人時代に向けたクルーズ船の受け入れ環境の整備」「国際コンテナ戦略港湾政策の深化と加速」「南海トラフ地震・津波対策のための海岸保全施設の整備」に重点化して要望しており、これらの港湾関係予算が確実に確保されることが、我が国の経済が順調に成長していくため、また、安全・安心を確保するために必要不可欠であると考えております。

北海道は、耕地面積が日本の4分の1を占めているほか、日本一の水揚げを誇るなど我が国を代表する食料供

給基地となっており、北海道の港湾・漁港が農水産品物流の拠点として貢献しております。また、豊かな自然環境、高品質の農水産品などの観光資源が多く存在していることから、急増する訪日クルーズ船の寄港による訪日旅客の受け入れ機能が期待されております。さらには、地域経済を支える地方の港湾の整備、老朽化対策の推進も求められております。また、訪日外国人旅行者の受け入れ機能の強化、国内・国際航空ネットワークの強化を図るため、空港施設の更新・改良を推進することが必要と考えております。

当協会といたしましては、これらの港湾・漁港、空港の整備及び機能強化は、北海道が活力があり魅力のある地域となるために極めて重要であることを訴えてまいります。

港湾空港関係建設業界は、社会資本整備の担い手として、また、社会の安全・安心の確保の担い手として期待されており、その役割は益々重要なものとなっております。本年も、会員の皆様のご理解とご協力をいただきながら諸課題に取り組んでまいり所存であります。

会員の皆様の一層のご支援ご協力をお願いするとともに、新しい年が皆様方にとりまして、希望に満ちた発展の年になりますことを心より祈念いたします。

# 港関係団体と当協会が 北海道開発局と意見交換会を開催

平成29年12月8日（金）ホテルポールスター札幌において港関係団体と当協会の共催で「平成29年度港湾・空港・漁港事業に係わる意見交換会」を開催した。出席者及び意見交換会の内容は以下のとおり。



北海道開発局



港関係団体



宮崎会長

## 出席者

### ◎北海道開発局

港湾空港部長  
 港湾建設課長  
 港湾行政課長  
 空港・防災課長  
 農業水産部水産課長  
 港湾計画課長補佐  
 港湾計画課港湾企画官  
 港湾行政課港湾管理官  
 空港・防災課港湾保安全管理官  
 農業水産部水産課水産企画官  
 港湾建設行政課長補佐  
 空港・防災課長補佐  
 港湾建設課建設第2係長

眞田 仁  
 平澤 充成  
 逸見 将吾  
 佐々木 純  
 田中 郁也  
 古屋 武志  
 白熊 良平  
 冨家 靖隆  
 斉藤 敦志  
 伊藤 千尋  
 矢野 隆博  
 平尾 利文  
 菊池 隆一

### ◎港関係団体

○北海道港湾空港建設協会  
 会長 宮崎 英樹  
 技術委員会 副委員長 宮本 義憲

○(一社)北海道建設業協会  
 港湾・漁港部会長 藤田 幸洋  
 副部会長 百瀬 治

○(一社)全日本漁港建設協会  
 北海道支部長 西村 幸浩  
 副支部長 堀松 一郎

○(一社)日本埋立浚渫協会  
 北海道支部長 白川 隆司  
 技術委員長 鈴木 定義

○(一社)日本海上起重技術協会  
 北海道支部長 宮崎 英樹

○全国浚渫業協会  
 北海道支部長 藤田 幸洋

○(一社)日本潜水協会  
 札幌支部長 堀松 宏朗

○港関係団体連絡会  
 会長 岡崎 光信

## 北海道港湾空港建設協会 要望事項

平素は、当協会の業務運営に関しまして格別のご指導ご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

当協会は、昭和61年4月設立以来、港湾空港建設技術を開発、向上させ、港湾空港建設業の社会的地位の向上と健全な発展を図るとともに、港湾・漁港、空港整備の促進に寄与することを目的として事業を行ってきたところです。

北海道においては、国内外との物流の殆どを海上輸送に依存するなど、港湾は極めて重要な社会資本となっております。

特に、北海道は、耕地面積が日本の4分の1を占めているほか、日本一の水揚げを誇るなどわが国を代表する食料供給基地となっており、北海道の港湾・漁港が農水産品物流の拠点として貢献しております。また、豊かな自然環境、高品質の農水産物などの観光資源が多く存在していることから、急増する訪日クルーズ船の寄港による訪日旅客の受け入れ機能が期待されております。

このため、港湾・漁港、空港の整備・機能強化は、北海道が活力があり魅力のある地域となるために極めて重要であります。

会員企業は、建設投資が減少した状況の中で、工事の施工能力を維持するため、一層の合理化などの経営努力を重ね、各地域の社会資本整備を通じて地域の発展に寄与する役割を果たしていく所存であります。

会員企業の現状を踏まえ、下記に懸案事項を取りまとめましたので格別のご理解とご高配を賜りますようお願い申し上げます。

## 要望事項

### 1 平成30年度港湾空港関係予算の確保について

北海道においては、国内外との物流の殆どを海上輸送に依存し、港湾、漁港は、極めて重要な社会資本となっております。

産業インフラとしての機能強化、農水産品の輸出力の

強化、大型化するクルーズ船の受け入れ機能の整備、国土強靱化に向けての取組みの強化、離島の安定的生活の確保などを図るため、港湾、漁港、漁場の整備及び機能強化を推進することが必要と考えております。

また、北海道のインバウンド観光の振興に対応した機能の強化、国内外の航空ネットワークの強化を図るため、空港施設の更新・改良を推進することが必要と考えております。

会員企業は、安定的・持続的な経営の下で社会資本整備を通じて地域の発展に貢献する役割を適切に担って参りたいと考えており、平成30年度の港湾、漁港、空港関係予算につきまして、増額確保をお願いいたします。

また、冬期間における事業量の確保及び工事の平準化のため、平成29年度ゼロ国債予算を含む補正予算の早期の編成と執行をお願いいたします。

### 2 一般競争入札における調査基準価格の引き上げについて

一般競争入札における落札金額が、調査基準価格に近い金額となる傾向にあります。

平成29年度から調査基準価格の算定式が、(直接工事費×97%+共通仮設費×90%+現場管理費×90%+一般管理費等×55%)×1.08となっておりますが、建設業が適正な利益を確保し安定的な経営を維持するため、さらなる一般管理費の対象の引き上げをお願いいたします。

### 3 重機の運搬費について

分解組立が必要なクレーンなどの重機で、20tを超える場合の運搬費の設計金額は、定率を当てはめて積算されていますが、市街地から遠距離の工事現場におけるこれらの重機の運搬費の実態が設計金額を大きく上回る場合がありますので、実態に対応する運搬費の計上をお願いいたします。

### 4 大型ブロック製作クレーンの費用について

クレーンを使用する大型ブロック製作時のクレーン費

用について、平成28年度より50tを超えるブロック製作については見積もり活用とする運用をしていただき、効果を得ているところですが、50t以下のブロック製作においても少数個の製作である場合はクレーン賃料について乖離が生じる状況になっております。

つきましては、現在の運用につきまして、さらなる拡大をお願いいたします。

### 5 海域区域の供用係数の適用について

海上工事における供用係数及びその適用期間は、海域区分別に港ごとに港湾土木請負工事積算基準に定められています。

適用期間と実際の施工期間の不整合や供用係数と実態の海象条件との乖離が生じており、適用期間及び供用係数の適切な対応をお願いいたします。

### 以下、他協会の要望事項

#### (一社) 北海道建設業協会 港湾・漁港部会

1. 平成30年度当初予算の増額確保について
2. ゼロ国債の措置について
3. 防災・減災に不可欠な基盤施設の整備について
4. 地域活性化に必要な港湾施設の整備について
5. 地元建設企業への受注機会の確保等について

#### (一社) 全日本漁港建設協会 北海道支部

1. 平成30年度水産基盤整備事業（漁港漁場整備）予算等の確保について
2. 安定的で持続的な予算の確保について
3. 防災・減災対策の更なる推進について
4. 早期発注及びゆとりある工期の設定について

#### (一社) 日本埋立浚渫協会 北海道支部

1. 港湾関係公共事業費の確保について
2. 「働き方改革／担い手確保」「生産性の向上」に向けての取組み推進
3. 技術提案評価型（S型）またはWTO準拠型工事の確保について

#### (一社) 日本海上起重技術協会 北海道支部

1. 平成30年度港湾関係予算の確保について
2. 地元企業への工事量の確保について
3. 登録海上起重基幹技能者の評価工事の拡大について
4. 港湾工事における労働環境改善と担い手確保について

#### 全国浚渫業協会 北海道支部

1. グラブ浚渫工事量の確保・増大
2. 国土交通大臣顕彰を受けた建設技能者の評価について
3. 税制・補助に関する要望

#### (一社) 日本潜水協会 札幌支部

1. 港湾潜水作業にかかる事業量の確保について
2. 港湾潜水技士資格の活用について
3. 潜水土船の船員法適用除外について
4. 潜水土の担い手育成への支援について

# 日本港湾空港建設協会連合会と当協会が北海道開発局と意見交換会を開催

平成29年12月7日（木）ホテルポールスター札幌において日本港湾空港建設協会連合会と当協会の共催で国土交通省北海道開発局と意見交換会を開催した。出席者及び意見交換会の内容は以下のとおり。



北海道開発局



日港連



宮崎会長

## 出席者

### ◎北海道開発局

港湾空港部長  
 港湾計画課長補佐  
 港湾行政課長  
 港湾建設課長  
 空港・防災課長  
 農業水産部水産課長  
 港湾行政課港湾管理官  
 港湾行政課長補佐  
 空港・防災課港湾保管理官  
 空港・防災課長補佐  
 農業水産部水産課水産企画官  
 港湾建設課建設第2係長

眞田 仁  
 古屋 武志  
 逸見 将吾  
 平澤 充成  
 佐々木 純  
 田中 郁也  
 富家 靖隆  
 矢野 隆博  
 斉藤 敦志  
 平尾 利文  
 伊藤 千尋  
 菊池 隆一

### ◎日本港湾空港建設協会連合会

会長  
 専務理事  
 技術委員長  
 技術ワーキング委員長  
 技術ワーキング委員会委員

川島 毅  
 幸田 勇二  
 大滝 雅宣  
 小松 英則  
 田村 康幸

### ◎北海道港湾空港建設協会

会長  
 副会長（技術委員長）  
 副会長  
 副会長  
 技術委員会副委員長  
 委員（部会長）  
  
 委員（副部会長）  
 委員  
  
 委員  
 委員  
 委員  
 委員  
 委員

宮崎 英樹  
 藤田 幸洋  
 金子 功  
 西村 幸浩  
 宮本 義憲  
 岡崎 光信  
 （日港連技術委員）  
 石脇 雅生  
 高柳 省一  
 （日港連技術委員）  
 杉本 義昭  
 岩城 儀人  
 竹中 正  
 柴田 政雄  
 市来 隆

## 要望事項

平素より日港連の活動に深いご理解と温かいご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

当連合会は、「港湾空港建設技術の開発及び向上」と「港湾空港建設業の健全なる発展及び社会的地位の向上」を目的に掲げ、港湾空港整備を担う建設業者が加入する全国の都道府県協会を結集して1984年（昭和59年）に設立され、以来34年を数えます。

現在、我が国は急速に進む人口減少社会を迎えておりますが、今後とも持続的な経済成長を実現していくためには、産業活動や地域経済を支える港湾インフラの整備・拡充が不可欠です。特に、急増するクルーズ需要に対応した受入環境の整備や、国際コンテナ戦略港湾、地域の基幹産業の競争力強化のための港湾整備等を推進する必要があります。また、国民の安全・安心を確保するためには、切迫する巨大地震や激甚化する気象災害に対する防災・減災対策の推進、更には東日本大震災、熊本地震など被災地の復旧・復興を進めていかなければなりません。

全国津々浦々に所在する会員企業は、これまでこれらの港湾インフラの整備を担ってきており、これからも社会資本整備を通じて地域社会の発展に貢献して参りたいと考えております。一方、我が国では将来的に生産年齢人口が減少していくため、建設産業における担い手の確保・育成は喫緊の課題となっています。このような状況に対応するため日港連では、長時間労働の是正や週休2日の推進など建設産業における働き方改革や生産性の向上に取り組んでいくこととしておりますが、業界だけでは解決できない多くの課題が残されております。

このような現状を踏まえ、私どもが抱えております当面の懸案事項につきまして、下記のとおり要望しますので格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

### 1. 港湾関係社会資本の整備推進

持続的な経済成長と国民の安全・安心の確保を実現するため、急増するクルーズ需要や国際物流に対応した港湾機能の強化、切迫する巨大地震や激甚化する気象災害に対する防災・減災対策の推進、更には災害被災地の復旧・復興など港湾関係社会資本の整備推進に必要な予算の増額確保をよろしくお願い申し上げます。

### 2. 港湾空港建設業の健全な発展が可能となる公共調達制度の改善

建設業における担い手を確保していくためには、若年層の入職を促進するよう長時間労働の是正や週休2日など働き方改革を推進するとともに、ICT等の活用や現場業務の効率化など生産性の向上を図っていくことが必要です。このため、港湾空港建設業の健全な発展が可能となるよう、以下の項目についてご検討いただきますようお願い申し上げます。

#### (1) 建設現場における生産性の向上

##### ① i-Constructionの推進

浚渫工だけでなく港湾工事全般への適用を拡大し、現場作業の効率化を図ること。

##### ② 現場管理業務の効率化

・ 工事書類簡素化の推進：簡素化試行工事の対象工種を拡大し着実に推進すること。

・ 電子検査の推進：工事完成時の電子検査を推進し紙資料の削減を図ること。

・ 工事書類の二重納品防止：電子での納品を徹底し紙資料の提出を求めないこと。

##### ③ 工事帳票管理システムの改善

工事完成検査時に使用する工事帳票管理システムは検索に時間が掛かるなど操作性に難点があり、電子検査を推進するためにもシステムの抜本的な改良を図ること。

(2) 建設業の担い手確保

① 休日の確保

建設業の担い手を確保するためには、他産業並みの休日取得が不可欠であり週休二日制の実現に向け、適正な工期設定を行いつつ試行工事を更に推進すること。

② 若手・女性技術者の確保・育成

現行の若手・女性技術者の配置で加点する総合評価制度は、育成よりも受注競争を助長する傾向があり、当該技術者に過度な負担が生じている。若手・女性技術者の配置・育成に対して工事成績で加点評価するなど、より緩やかな評価制度を検討すること。

(3) 入札・契約制度の改善

① 入札事務手続きの効率化

- ・競争参加資格審査時の工事实績等の証明資料(コリンズ写し)添付の省略。
- ・現行の電子入札システムの受付容量3MBを拡大すること。
- ・配置予定技術者の落札決定後の同等技術者への変更を可能とすること。

② 工事請負契約の電子化

工事請負契約を電子化することにより、契約事務手続きの効率化を図ること。

③ 適切な設計変更

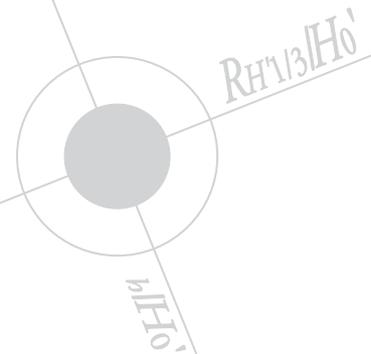
設計変更協議会、契約変更に関する相談窓口の活用を啓発するなど設計変更ルールの円滑な運用を行うこと。

④ 低入札価格調査基準の設定範囲の上限撤廃

調査基準の設定範囲(7/10~9/10)の上限値9/10を撤廃すること。

(4) 公共調達制度の港湾管理者等への普及

担い手確保につながる公共調達制度について港湾管理者等への普及を図ること。



# 港関係団体連絡会と 北海道開発局担当者が 意見交換会を開催



平成29年11月22日（水）小田ビル会議室において港関係団体連絡会（岡崎光信会長）は、北海道開発局と平成29年度港湾・空港・漁港工事に関する意見交換会を開催した。

北海道開発局から港湾空港部平澤充成港湾建設課長、佐々木純空港・防災課長、農業水産部水産課伊藤千尋水産企画官など6名出席、港関係団体連絡会から岡崎光信会長、山田悦郎副会長、鈴木定義副会長など港関係7団体から13名が出席して「入札・契約に関する要望」「設計・施工に関する要望」について意見交換を行った。

主な要望内容は以下のとおり。

## 主な要望内容

### 入札・契約に関する要望

1. 競争参加資格の申請書類について
2. 事前登録制度活用の拡大について
3. 技術提案評価型S型工事の提出期間について
4. 技術者育成型工事について
5. 施工能力評価型の評価結果の公表について
6. 週休2日モデル工事について
  - 6-1 休日確保に向けた取組
  - 6-2 週休2日制（4週8休）について

## 設計・施工に関する要望

1. 海域区域の供用係数
2. 施工個所が点在する工事の積算について
3. コンクリートのひび割れについて
4. 海上材料投入施工単価について
5. 胸壁コンクリートの嵩上げの積算について
6. 大型クレーンの拘束日数について
7. グラブ浚渫の土厚区分能力係数について
8. 作業船及び陸上クレーンの規格について
9. 重建設機械の運搬費について
  - 9-1 分解・組立を要する重機の運搬費について
  - 9-2 空港工事の重機運搬について
10. 交通誘導警備員の計上方法について

# 平成29年秋の叙勲受章者 伊藤組土建(株)伊藤義郎名誉会長が 旭日重光章を受章

平成29年秋の叙勲受章者が発表され、伊藤組土建(株)の伊藤義郎名誉会長が産業振興功勞で旭日重光章を受章した。  
伊藤義郎名誉会長は、長年にわたり建設業に従事する傍ら、建設業界をけん引して道内の社会資本の整備・発展に力したほか、産業経済の振興をはじめ多分野における社会貢献が高く評価された。



**伊藤 義郎 氏**  
生年月 大正15年12月

- 学 歴** 昭和25年 3月 早稲田大学政治経済学部経済学科 卒業  
昭和29年 米国カリフォルニア大学経営学科大学院 修了  
昭和30年 米国コロンビア大学経済学科大学院 修了
- 職 歴** 昭和25年 5月 伊藤組土建株式会社 取締役  
昭和31年 3月 同社 代表取締役社長  
平成14年 6月 同社 代表取締役会長  
平成20年 4月 同社 代表取締役名誉会長  
平成21年 4月 同社 取締役名誉会長 現在に至る  
昭和31年 3月 伊藤組農林株式会社 代表取締役社長 現在に至る  
昭和36年12月 林株式会社 伊藤組 代表取締役社長 現在に至る  
昭和41年 5月 株式会社 北海道建設会館 代表取締役社長 現在に至る
- 団体歴** 昭和45年 5月～平成20年11月 (社)札幌建設業協会 会長  
昭和45年 5月～平成20年11月 (社)北海道建設業協会 会長  
昭和57年 5月～昭和63年 5月 (社)全国建設業協会 副会長  
平成 6年 8月～平成13年10月 札幌商工会議所 会頭  
平成 6年 9月～平成13年11月 (社)北海道商工会議所連合会 会頭  
平成22年 5月～現在に至る 北海道日米協会 会長
- 賞 罰** 昭和49年 7月 労働大臣表彰 (産業安全の功績)  
昭和57年 7月 建設大臣表彰 (建設業界振興の功績)  
昭和58年11月 藍綬褒章 (産業振興の功績)  
平成28年10月 北海道功勞賞特別賞

# 北海道水産林務部 平成29年度 水産土木工事等 優秀業者表彰

北海道水産林務部は、平成29年度水産土木工事等優秀業者感謝状の贈呈式を12月19日（火）ホテル札幌ガーデンパレスで挙行了。同部所管の平成28年度完成工事等において、その功績がきわめて顕著で、水産林務行政の推進に尽力した工事部門23社、委託部門3社に知事感謝状が手渡された。表彰された優秀業者のうち、水産土木部門では当協会員、勇建設(株)、(株)草別組、(株)南組、真壁建設(株)、(株)宮原組、渡辺建設工業(株)の6社が受賞した。

## 【水産土木部門受賞】

勇建設(株)（札幌市）	代表取締役社長	坂 敏弘	真壁建設(株)（根室市）	代表取締役	山下 洋司
(株)草別組（岩内町）	代表取締役	小松 知史	(株)宮原組（厚岸町）	代表取締役	宮原 文憲
(株)南組（様似町）	代表取締役社長	南 修	渡辺建設工業(株)（根室市）	代表取締役社長	渡部 仁志



# 函館港若松地区クルーズ船岸壁整備事業着工式典を開催

函館開発建設部と函館市は12月3日、函館市国際水産・海洋総合研究センターで函館港若松地区クルーズ船岸壁整備事業着工式典が執り行われた。北海道開発局や函館市、工事関係者ら合わせて約85人が出席し、岸壁の平成30年度の暫定供用を目指し、関係者が工事の安全と早期完成を祝った。

同事業は、大型クルーズ船が受け入れ可能な岸壁を観光の中心地に近い若松地区に整備するもので、平成28年度に事業着手し延長360m、水深10mを整備するものである。

式典では事業主体である函館開発建設部の菊池一雄部長が事業効果や着工までの経緯について説明した上で、「今後の工事の安全と周辺環境保全に万全を期し、一日も早く施設を完成させ、地域の皆さんの期待に応えていきたい」と抱負を述べた。続いて、函館市の工藤壽樹市長は「若松地区に岸壁を整備することで乗客の利便性が高まる」と強調し、観光

振興に向け寄港数のさらなる増加を目指す考えを示した。

引き続き、国土交通省港湾局の浅輪宇充技術参事官や道内選出国会議員が祝辞を述べたあと、函館港湾事務所の上田裕章所長が事業概要について説明がされ、最後に和泉晶裕開発局長や工藤函館市長らによってくす玉を割り着工を祝った。

(記事は北海道通信から抜粋)



着工式典(くす玉開破)



JR函館駅に隣接して整備される岸壁



八幡坂からの眺望(完成後イメージ)

(写真提供：函館港湾事務所)

# 我が社の安全衛生管理

株式会社南組 専務取締役 熊谷 真一



## 1. はじめに



当社は、昭和3年創業、建設業を主体に地域に根ざした企業活動を行ってまいりました。早期から海上土木工事に進出し、起重機船350t吊を先頭にスパット付台船等4船団を擁し、漁港・港湾工事を中心に事業を行っています。

近年は平成27年に漁港・港湾の維持補修工法である「永久型枠工法」で国土技術開発賞の国土交通大臣賞を受賞。また、農業水路補修の機械化施工である「左官アシスト」機を開発、本州でも注目されています。

「常によりよい技術を求め、顧客の信頼を得、地域社会への貢献を目指す」を基本方針に掲げると共に安全第一の姿勢を貫き、社業の発展を目指しています。



表彰される南社長(右)



## 2. 安全衛生基本方針



「自分自身と家族のために 今日一日を無事故で過ごそう!!」をスローガンに  
イ. 9項目の重点方策を定め災害絶無を目指しています。  
ロ. リスクアセスメントによる危険予知活動の徹底を掲げ、安全衛生活動を積極的に展開することを基本方針としています。



## 3. 安全衛生管理計画



年間安全衛生管理計画は、5月の第1回開催と毎月開催する安全衛生委員会において、年間スケジュール、実施項目、目標、重点施策等を決定しています。



安全衛生委員会

この計画に基づいて各工事現場も安全活動を実施します。



## 4. 安全衛生活動



### ①安全衛生大会

安全衛生大会を春季と秋季の年2回開催しています。大会は当社全職員のほか関連会社・協力会社の社員や作業員も参加し、労働基準監督署、浦河警察署より安全講話をいただいた後、2現場の朝礼時のKY活動の実演を行い、良い点や改善点について全員で意見交換を行うなどして、安全作業の意識向上を図っています。

大会終了後は、全員が会社前の国道にならび、轢やタスキによる交通安全街頭啓発運動をしています。



安全衛生大会でのKY活動の実演

### ②本社安全パトロール

毎月中旬に社長、専務、常務、労務安全室により全作業所をパトロールしています。また、指示事項や改善点、留意事項等についてはインターネットを利用して全作業所への共有を図り、労働災害防止に役立てています。



本社安全パトロール

### ③救命浮環による人命救助訓練

防波堤や岸壁等の海に接する工事が多いことから、作業船乗組員や作業員が海へ墜落・転落したときの備えとして、潜水士を海中転落者に見立て救命浮環を使用しての救助訓練を実施しました。



救命浮環による救助訓練

これにより、風があると浮環を的確に転落者に投げ込めないこと、転落者を岸壁に引き上げるための梯子等の場所は事前に確認しておくこと、などの留意点が把握でき、各現場の安全活動に反映することとしました。

#### ④ドライビングシミュレーターでの診断

大きな交通事故ではないのですが、年間数件の車両自損、物損事故が発生しています。そこで損害保険会社のご協力をいただき社員、作業員74名に一人約20分をかけたドライブシミュレーターによる運転適性診断を実施しました。



運転適性の診断

結果はやはり年齢が高くなると反応時間が遅くなる傾向でしたが、運転者一人一人が自分の適性診断書を確認し、客観的な運転特性のもとで安全運転を心がける手助けとなりました。今後も実施していきたいと思えます。

また、数年前から鹿との衝突を防ぐために「鹿よけ笛」を全車に装着していますが、以前よりは確実に事故件数が減っています。

#### ⑤安全標語の表彰

毎年安全標語を公募し優秀標語は5月の春季安全衛生大会で表彰しています。今年は80点の応募がありこのうち5点を選定し、本社内はもちろん各作業所に掲示すると共に、安全衛生活動や朝礼時のKY活動で唱和し、安全意識を高めています。

また、賞には家族賞を設け職員や作業員だけでなく、家族全員の災害防止意識の向上も図っています。

平成29年度の最優秀標語は「労災は、油断と過信と妥協から 安全意識で0災害」です。

#### ⑥交通事故、災害発生、監督署立入情報等の速やかな共有

事故が起きた時や監督署からの注意事項は、速やかに職員全員へ一斉メールを行い、事故の概要や今後の注意事項等を共有することにより、類似事故の発生を食い止めるようにしています。

## 5. 作業所安全衛生管理活動

各作業所ではリスクアセスメントを実施しリスクの低減処置に基づいた作業の実施を行っています。また、災害防止協議会には本店労務安全室からも毎回参加し、現場職員、協力会社作業員等で協議を行い、安全上の現場改善、災害防止対策を行っています。

作業所で行う地震津波避難訓練は、発注者と連携のうえ実施し、より実践的な内容としています。



災害防止協議会

## 6. その他の活動

毎月8月には町道の清掃活動を職員が実施し、町や周辺の住民からお礼の言葉をいただいています。また、地元小学校のプールを清掃し生徒や先生に喜ばれました。各現場でもみなと周辺の道路や公園等の清掃を地元の方と協力しながら行い、地域貢献や地元との交流活動にも汗を流しています。



プールの清掃活動

## 7. むすび

労働災害防止には、繰り返しなども安全について話をし、注意し続けることが肝要であると考えています。また、安全施設の整備をすることはもちろんですが、ヒューマンエラーと言われる近道行動や省略行為、集中力が欠けた行動等を減らすためには、現場内でのお互いの声かけなどのコミュニケーションを常に行うことも必要と思います。

ゼロ災めざし、今後とも役職員、協力会社の皆様とも日々努力をしていきたいと思えます。

# 釧路港西港区 - 14m岸壁A・C部 その他上部工事

RH13/H0

U/H0

みらい建設工業(株) 北海道支店 釧路作業所 所長 山田 敏久

## 1. 工事の概要

釧路港は、背後地域に国内最大の酪農地帯を有しており、酪農に代表される東北道の農業などの主産業は、原材料や製品の輸送に釧路港を利用している。特に酪農で飼育されている乳用牛の飼料となるトウモロコシは、主として北米からパナマックス船で輸入されているが、現在穀物を取扱う釧路港第2埠頭は水深が浅く、積載量を減らさないと入港できないため、非効率な輸送形態となっている。

平成26年度より「釧路港国際バルク戦略港湾」として、国の直轄工事により、大型船の入港に対応する国際物流ターミナル整備事業が着手された。

本工事は、平成29年4月に着工し、A部2基・C部1基のジャケット3基を製作して据付たあと、グラウト工・鋼材溶接工・塗装工を行うものである(写真-2)。また、前年度(平成28年度)に据付完了したジャケットのグラウト工・鋼材溶接工・塗装工も実施するものである。

## 2. ジャケット工法の概要

ジャケットとは、鋼管を立体的に組み立て、海底地盤に打ち込んだ杭と一体化させる構造のことで、杭にジャケットを被せた格好が、上に羽織るという意味で「ジャケット」と呼ばれている。杭と構造物の脚(レグ)の一体化は、グラウト注入および鋼材溶接で行う。

当該工事では、ジャケット3基を三重県津市で製作し、海上輸送で釧路港に搬入し、据付る計画である。



写真-2 施工位置



図-1 -14m岸壁整備位置図

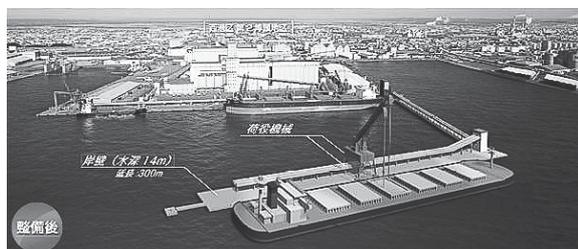


写真-1 -14m岸壁整備後のイメージ概要

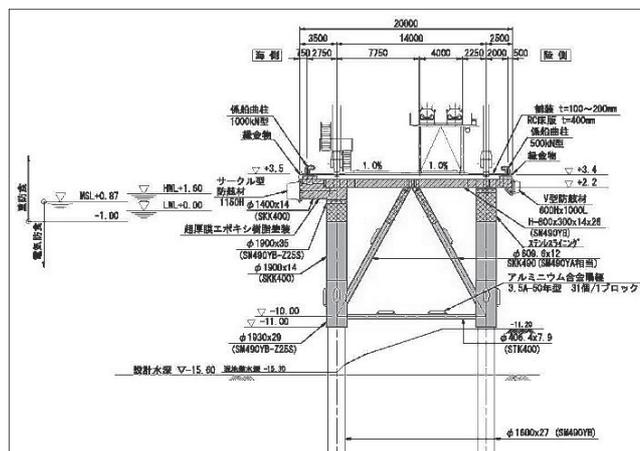


図-2 標準断面図

### 3. 工事の留意点および作業状況

#### (1) ジャケット工場製作時の溶接作業環境の改善

ジャケット製作は、製作工場の屋外で海に面している場所で行うことから、溶接品質の低下および工程遅延が懸念された。そこで、平面組立では『移動式上屋と防風壁（写真-3）』を使用して風雨等の影響を遮断し、溶接の作業環境を確保した。



写真-3 ジャケット工場製作<平面組立>

#### (2) ジャケット上部からの転落防止対策

ジャケット据付の際には、ジャケット上部で玉掛け・玉外し作業等を行うが、約14mの高所であること、波の影響による動揺があること、および上部桁の幅が狭いこと等により転落の危険性が高いことが懸念された。

そこで、ジャケット製作工場では『事前に上部全面に足場を設置しておく（写真-4、5）』ことで、安全性を向上させた。



写真-4 ジャケット上部足場



写真-5 足場およびグラウト注入状況

### 4. あとがき

今後は、厳冬期特有の災害が懸念されるところであるが、2月下旬の工期末まで、無災害で竣工を迎えるよう更に尽力したい。



ジャケット据付状況

# 私の趣味

## 『プラモデル作り』



あおみ建設株式会社 北海道支店  
高田 稔年

### 1. 北海道開発局定年を迎えて

平成28年3月31日をもって苫小牧港湾事務所を最後に42年間の長きにわたる公務員生活にピリオドを打ちました。毎日が休みなのですが、やらなければならない家の仕事（外回りやがらくた整理等）や計画していた旅行など、4月中に殆ど終了させ、5月のゴールデンウィーク時には何もすることがなくなりました。

ゴールデンウィークのある日、部屋のベッドに横になりテレビを置いてあるコーナー家具の上に55歳の誕生日に娘たちが買ってくれた1万円もする「日本丸（帆船）」のプラモデルの箱が目に入ってきました。暇つぶしにちょうど良いと、プラモデルの箱を開けたのが苦闘の始まりでした。

### 2. プラモデル作りが好きになったきっかけ

中学生のころ、三菱ギャランGTOがカッコよく、同級生の中で憧れの車でした。高校3年のころ、地元と同級生で誕生日の早いやつが、夏休み中に車の免許を取り、秋にはギャランGTOを乗り回していたのが羨ましく、私も高校卒業前の1カ月の休みの間に、白老の萩野まで行って免許を取ろうと思いましたが、富川（現日高町、昔門別町）から苫小牧経由で白老に行くのに汽車の乗り継ぎが悪く断念しました。（苫小牧工業高校時



エンタープライズ完成写真

代に苫小牧にも自動車学校はあったが、同級生から萩野は簡単に免許が取れると聞いたため）

開発局に入局した昭和49年のある日、おもちゃ屋に入った時にしばらく忘れていたギャランGTOのプラモデルを見つけ、思わず買ってしまい、すぐに作りあげアパートに飾ったのがきっかけです。忘れもしない、当時ではかなり目立つ橙色のギャランGTOでした。

車の免許を取ったのは、23歳の2月で、もちろん車は中古でしたがギャランGTO2000GSRです。余談ですが、この車は有鉛ハイオクで昭和59年ごろハイオクが無鉛ハイオクになったため、残念ながら車を買い替えました。

昭和49年には、バカでかい原子力空母エンタープライズも製作しています。

### 3. 猫と転勤との闘い

札幌から留萌に転勤してからも年に1～2個は買ってきて作っていた。大作は、マストの高さが30cmもあるヨットや戦艦大和、ハーレーダビットソンなどがありました。ほかにも、お城や仏閣（ケース付）をたくさん作りました。

結婚は、札幌にいた昭和55年で、官舎住まいとなつてすぐに子猫が官舎に迷い込み、可愛いので飼うことにしました。留萌転勤にも連れて行ったのですが、この猫がじゃれる、飛びつく、走り回りでプラモデルも高いところに飾っていたのですがマスト高30cmのヨットの帆に飛びつき畳に落下し大破しました。

その後も作っては壊されで、プラモデルが増えることはありませんでした。最終的には転勤時に持っていけないのですべて処分となり、留萌転勤後はしばらくプラモデル作りをやめました。(転勤のたびに捨てることになるため)

#### 4. 自宅で作ったプラモデル

恵庭市恵み野に家建てたのは、1回目の苫小牧港勤務の2年目で平成6年でした。転勤しても拠点地ができたので、気が向けばおもちゃ屋に寄って好きなタイプのプラモデルを買ってストックしておき、休みが続くときに気が向けば製作していました。1日で出来るものから2~3日かかるものまで、この間たくさん作り、汚くなったりセメダインが剥がれて壊れたものは捨てましたが、今あるプラモデルは12基です。(写真)



現在残っているプラモデル

自宅になってからは大作は作っていませんが、定年退職時の毎日が休みの時に作った「日本丸」が、今まで作った中で最大の大作となりました。

#### 5. 「日本丸」完成まで

「日本丸」の製作は、5月5日から始まりました。箱を開けるとたくさんのパーツの袋があり、設計図も23ページもありました。昔、作ろうと思って一度箱を開けたとき、見ただけで嫌になり箱を閉めて、また「箱だけ飾り」としたことがありましたが、今回は腹を決めて製作に取り掛かりました。

船体部分は簡単で、半分の船体をセメダインで貼り合わせるだけです。その後、船体の半分から下の部分に朱色を塗るのですが、朱と白の分け目がきれいな線になるように色を塗る前に剥がしやすいテープを船体に貼り、太めの平筆で一気に塗ります。ムラにならないよう丁寧に塗ったのですがテープを剥がすとテープと船体に隙間があったようで、数か所色がテープ側にしみだしてしまいました。カッコが悪いので濃い目の白色を細い筆で塗り化粧直しをして

完成です。プラモデルの体形としては、これで半分ぐらいできた感じがしますが、この後が各パーツの細かい作業となっていきます。

この後は、設計図のとおり部品をニッパで切り、切口をヤスリで削り、小さなパーツを作っては色を塗り、甲板に接着の繰り返しです。1日5、6時間、長い時は8時間ぐらい製作に没頭していたときもありました。

マスト4本を立てたとき、できた感がやっとなりましたが、これからが大変でした。最もイライラしたロープ張りがあり、設計図とおりにマストに縛っては両舷の手すりなどに張りながら縛り、ほどけないよう縛り目をセメダインで固める作業を行うのですが、この作業も2日間を要した記憶があります。最後に帆を張る作業で完成ですが、帆を張る作業は帆をハサミで型どおりに切り取り、マストに紐を巻き付ける穴を多数開け、紐を通しながらマストに巻き付けていく作業が延々と続きます。マスト1本に6帆取付けますが、マスト1本出来上がるとホッとしました。これを4本で、1日1マストで4日間かかりました。

そしてついに5月18日、2週間かかって完成を見ました。これで「日本丸」から解放され、安堵したわけですが、この苦闘でしばらくプラモデル作りはしていません。すでに1年半が過ぎ、気持ちも癒えてきたので、またおもちゃ屋に出向き何か面白いプラモデル探しをしようかと思っています。



日本丸  
(帆を張る前)



本物の日本丸  
(苫小牧港)



日本丸の完成



完成記念に妻に撮ってもらった写真  
(H28.5.18撮影)

# イベント

## 「経済と暮らしを支える港づくり全国大会」の開催

(公社)日本港湾協会、全国港湾知事協議会、全国市長会港湾都市協議会、日本港湾振興団体連合会、港湾海岸防災協議会の港湾関係5団体は、平成29年度「経済と暮らしを支える港づくり全国大会」を10月26日(木)、東京都千代田区平河町の砂防会館別館で開催され、全国各地から港湾関係者約1,000名が参加しました(北海道港湾空港建設協会関係者は約50名)。

来賓として石井啓一国土交通大臣、秋元司国土交通副大臣のほか、望月義夫自民党港湾議員連盟会長をはじめ54名の議員が応援に駆け付け大会を盛り上げていました。

開会にあたり主催者を代表して宗岡正二港湾協会会長、林文子全国市長会港湾都市協議会(横浜市長)、篠田昭日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長)が挨拶を述べられました。

来賓を代表して石井国土交通大臣が祝辞を述べられ、望月港湾海岸防災協議会会長の挨拶がありました。

そのあと、菊池身智雄国土交通省港湾局長が港湾行政報告として、平成30年度予算要求の重点施策を説明されたほか、地域の代表が港湾整備・振興に関する意見を表明しました。続いて、「港湾の整備・振興に関する要望書」を満場一致で決議し、宗岡宗一日本港湾協会会長から秋元国土交通副大臣、高橋克法国土交通大臣政務官、築和生国土交通大臣政務官に要望書が手渡されました。

### 要 望 項 目

1. 東日本大震災・熊本地震等の大規模自然災害からの復旧・復興
2. 日本経済の成長力強化
3. 国民の安全・安心の確保
4. 地域の活性化と豊かで利便性の高い地域社会の実現



# 平成29年度 第2回 小樽港フィールド・ラーニング開催

小樽開発建設部は平成29年10月6日（金）、同部庁舎で本年度第2回目となる小樽港フィールド・ラーニングを開催した。開建職員、小樽市や民間業者などから約50人が参加。日本データサービス㈱顧問の関口 信一郎氏が講師となり「廣井 勇の生涯と業績」を演題に土木技術の歴史を解説した。

小樽港フィールド・ラーニングは、初代小樽築港事務所所長で、工学博士の廣井 勇博士の考え方を学ぶ機会として平成24年度から始まった。同開建が港湾整備の計画・調査・設計・施工を考える勉強会として実施している。

昨年度から関口氏が講師を務め、「港湾の歴史～廣井 勇博士の生涯」と題した全4回の開催企画で行われている。今回はその4回目の講演となる。関口氏は、廣井博士に関する本を出版するなど廣井博士の研究者として知られている。

前回は「廣井 勇の生涯と業績」をテーマに講演。昨年の講演でふれたインフラの役割を踏まえ、小樽築港に至るまでの博士の人生や、仕事観などを振り返った。



講演する関口 信一郎顧問

今回の講演では、「近代築港と小樽港」と題し、小樽築港開始前の世界・日本における築港の歴史、防波堤築造の変遷について解説した。

関口氏の連続講演はあと1回を予定。最後の講演は、歴史の中で廣井博士の果たした役割と影響について解説する。

(記事は北海道通信から抜粋して掲載しました。  
写真提供は、北海道開発局 小樽開発建設部)



熱心に講演を聞き入る参加者



小樽開発建設部 阿部次長



小樽港湾事務所 今所長

# 釧路港西港区港見学会

9月9日（土）午前中、釧路開発建設部の港湾工事を受注している7企業、3共同企業体（釧路港港見学会実行委員会）は、小学生と父母を対象に港湾工事に理解を深めてもらうため、船上から釧路港の工事見学会を毎年開催している。

今年度は児童8人と保護者5人が参加、釧路港湾事務所（協賛）の港湾業務艇に乗船して防波堤、各ふ頭、大型荷役機械の役割、-14メートルバルク岸壁の整備状況

などの説明を受けながら西港区を約40分かけて見学した。

下船後は第3ふ頭に移動、バルク岸壁整備に使用している直径1.6メートル、長さ40メートルの鋼管杭の中を通り抜けたり、鋼管杭表面にチョークで自由に絵を描いて楽しんだ。

最後に事務所に移動し、見学会の感想文やカレンダー作りの下絵を描き終了した。カレンダーは、下絵と見学会写真の構成で作成し、参加者に配布した。



児童の記念撮影



鋼管杭への絵描き



デッキからの見学



鋼管杭の通り抜け



港湾業務艇船内

# 第7回苫小牧漁港区で ホッキまつりが開催

毎年恒例となった苫小牧漁港ホッキまつりは10月20日（金）に苫小牧港西港漁港区で開催された。

ホッキまつりは今年で7回目を迎え、苫小牧産ホッキ貝水揚げ日本一をPRするため、苫小牧漁業協同組合や（一社）苫小牧観光協会を含む11団体が構成する実行委員会が主催となって開催している。

まつりの目玉であるホッキ貝1袋（7個入り）1,000円の販売は、2,000個以上用意されたが、販売開始の9

時から2時間弱で完売する盛況ぶりであった。

そのほか、小学生以下による無料ホッキ狩りや鮭の棒引き、ホッキ早むき競争、海産物が当たるビンゴ大会など多数の催し物で会場を盛り上げた。また、海産物の物販やホッキ料理（ホッキカレー、ホッキバター焼き、ホッキごはん、ホッキラーメン等）も販売され、訪れた人たちはイベントを満喫していた。



ホッキまつり会場



ホッキまつりにぎわい状況



小学生以下対象の無料ホッキ狩り



ホッキ早むき競争

（写真提供：室蘭開発建設部 苫小牧港湾事務所 H29.10.20撮影）

# 今年も盛況 「小樽しゃこ祭り」が開催

今年で10回の開催を数え、すっかり秋のイベントとして定着した「小樽しゃこ祭り」が前日の暴風雨が収まった11月12日（日）、おたるマリン広場（第3ふ頭多目的広場）を会場に開催された。初日の中止の影響もあって、秋しゃこを楽しみにしていた大勢の人が朝から訪れ、予定時間を1時間繰り上げてのスタートとなった。

小樽のしゃこ漁は春と秋の年2回行われている。秋しゃこは身に旨味が凝縮されていて美味しいとの評価が

高く、今回は約3万匹のしゃこが用意され、小樽市漁業協同組合によるゆでしゃこ、しゃこ汁、ホタテ焼きの実演販売を始め、海鮮品の販売やしゃこパエリア、しゃこラーメンなどのしゃこを使ったオリジナル料理を提供する22店舗が出店し、秋の味覚を求める多くの来場者で賑わっていた。特に、大鍋を使ったゆでたてのしゃこは、ダイレクトにしゃこそのものの味を楽しめるとあって、長蛇の列をなす人気となっていた。



人気の「ゆでしゃこ」



小樽市漁業協同組合による「しゃこ汁」



しゃこが一杯の「しゃこパエリア」



休憩所も沢山の人の

# 大型客船等寄港

## 羅臼漁港に「にっぽん丸」寄港

8月29日（火）、商船三井客船「にっぽん丸（約22,500トン）」が道東の羅臼漁港に寄港した。小樽港を出発して利尻島経由で羅臼町への3泊4日のクルーズ。同漁港寄港は、2013年に始まり、今回で5回目となる。

同船は午前7時頃漁港から約600メートル沖に停泊、

乗客はテンドーボート（通船）2隻で西埠頭に上陸し、乗客365名が街並の散策や町公民館で食の歓迎を受けた。また、町民対象の船内見学会も実施された。

\*寄港地で接岸できる岸壁がない港では、テンドーボート（定員90名）を使用して上陸する。



出迎えする町民



羅臼漁港沖で停泊中の「にっぽん丸」



接岸中のテンドーボート



歓迎する町民

# 苫小牧港クルーズ客船 「ぱしふいっくびいなす」寄港



北ふ頭1・2号岸壁に接岸した「ぱしふいっくびいなす」

10月13日（金）、朝8時ごろ苫小牧港西港区北ふ頭1・2号岸壁（-7.5m岸壁）に、今年度最後のクルーズ客船「ぱしふいっくびいなす」（総トン数 26,694トン、船客定員620人）が寄港した。

このクルーズツアーは、日本クルーズ客船株が企画した「秋の日本一周探訪クルーズ」で、10月10日に神戸港を出港し、横浜港を経由して13日朝に、苫小牧港に入港した。

着岸した北ふ頭1・2号岸壁背後のキラキラ公園では、苫小牧クルーズ振興協議会の会員や苫小牧クルーズ船歓迎クラブ「苦人隊」のメンバーが横断幕を掲げて出迎え、ハスカップレディーや苫小牧市のゆるキャラのとま

チョップも参加して歓迎イベントを盛り上げた。

港の活性化を支援する「女性みなと街づくり苫小牧」のメンバーも、岸壁にテーブルセットを用意して「キラキラカフェ」を開催して乗船客や見物客にハスカップティーを振る舞い歓迎イベントをサポートした。

お見送り行事は午後6時30分より行われ、市内のジュニアダンススクール「DanceLABO」によるジュニアダンスや苫小牧西高等学校のプラスバンド演奏で出港までの時間を盛り上げた。

「ぱしふいっくびいなす」は、午後7時ごろ次の寄港地である直江津港に向けて出港した。



苦人隊による横断幕歓迎



とまチョップによる歓迎



出航前のプラスバンド演奏

写真提供：室蘭開発建設部 苫小牧港湾事務所

## ◎事務局だより◎

北海道港湾空港建設協会

### 【広報委員会】

- 1) 平成29年11月8日（水）  
広報誌「北のみなと93号」編集について
- 2) 平成29年12月1日（金）  
広報誌「北のみなと93号」編集について
- 3) 平成30年1月11日（木）  
広報誌「北のみなと93号」編集について

## ◎業界だより◎

## ◎広報委員会だより◎

平成30年1月現在の広報委員会は次表のとおりです。

委員長	金子 功	東亜建設工業(株)
副委員長	白川 隆司	東洋建設(株)
(部会長)	大倉 正憲	勇建設(株)
(副部会長)	東 志郎	萩原建設工業(株)
	荒井 直人	東亜建設工業(株)
	毛利 照男	釧石工業(株)
	渡辺 修司	(株)菅原組
	石島 隆司	近藤工業(株)
	渡部 優	菱中建設(株)
	大前 豊	五洋建設(株)
	高田 稔年	あおみ建設(株)

北のみなと

北のみなと



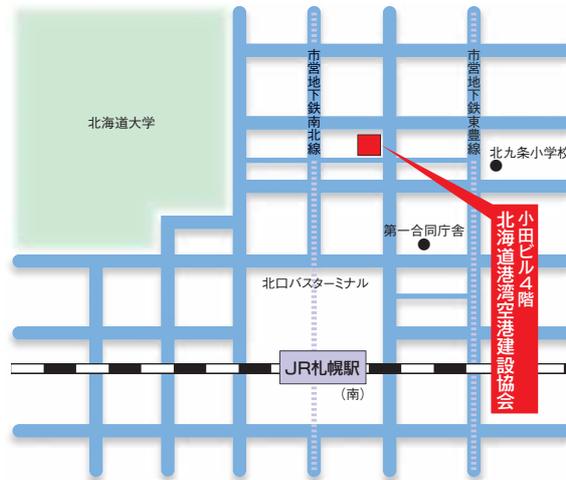
平成28年度に完成した屋根付き岸壁の利用状況



近年増加しているイカ釣り外来船の利用状況

「写真提供：室蘭開発建設部」

## 北海道港湾空港建設協会 案内図



## 会報「北のみなと」No.93

発行年月 平成30年1月  
 発行 北海道港湾空港建設協会 会長 宮崎 英樹  
 札幌市北区北9条西3丁目10-1 (小田ビル4階)  
 TEL (011) 707-4731 FAX (011) 707-4733  
<http://www.hokkaido-kkk.jp>  
 Email: hkkk@h4.dion.ne.jp  
 編集 北海道港湾空港建設協会 広報委員会  
 編集責任者 大倉 正憲  
 印刷 (株)須田製版